



佐々木中学校だより

E-mail sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp

電話 0254 (27) 2505

逆境に負けない心や折れない心を育む

今月4日に開催された新発田市新人大会では、各部が大活躍し、陸上競技部では、男子走り幅跳びで優勝、剣道部は団体戦で準優勝、柔道部は個人戦で3名が各階級で2位に入賞しました。大会後の各部の部長の感想からは、「大会で明らかになった課題をクリアしたい」「今回の悔しい思いを忘れずに練習する」「練習の成果を本番で発揮できるようにしたい」といった言葉が聞かれました。

運動部員であるかどうかにかかわらず、全校生徒は、毎日の学校生活を過ごす中で、勝ったり負けたり、悩んだり喜んだり、あるいは想定外の事態にビックリしたり落ち込んだりと、いろいろなストレスを感じています。身の回りの社会もめまぐるしく変化する中で、生徒が心身の健康を保ちつつ健やかに成長していくためには、「逆境に負けない心」を育むことがますます欠かせなくなっています。

中学生など著しい成長期にある子どもは、五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）に優れており、とても感性豊かだと言われます。しかし、感じていることを言葉で分かりやすく説明できる表現力を十分には持ち合わせていない中学生も少数とはいえません。思春期特有の感情をどう扱ってよいかわからず混乱してしまうこともあります。

感情には、ポジティブ感情（心地よい感情）とネガティブ感情（居心地の悪い感情）の大きく2つがあります。「うれしい、楽しい、安心、ワクワクする」などのポジティブ感情と、「悲しい、不安、怖い、イライラする」などのネガティブ感情です。

どんな感情ともうまく付き合うためには、特にネガティブ感情への対応力が大切です。逆境や困難、強いストレスなどに直面したときに、適応できる精神力、さらには、悩みや苦しみから回復しようとするたくましい力を、身に付けて行かなければなりません。この力は、「レジリエンス」と呼ばれる力です。

新人戦を終えた直後から、現在の自分たちの力を見つめ、今の自分たちに不足しているところを考え、今後の課題を見つめ、その課題を解決する対策を考えようとする生徒の姿勢には、強い精神力やたくましい生きる力を感じます。

これからも佐々木中学校では、中学校3年間の様々な体験を通して、生徒一人一人に、困難な状況を克服しようとする力や、逆境（苦しい状況）から這い上がってやろうという力や、悔しさをバネに努力しようとする気持ちを、育んでいくことを目指していきます。

この「レジリエンス」の力には、4つの大切な要素があり、その力を育むことで、自分の内面を鍛えることができますとも言われます。

1つ目は、「心の支えになる家族や温かな友人（先輩・後輩）との人間関係をつくる力

2つ目は、「自分の強みや弱みを知り、「自分の長所」から自分に自信をもつ自尊感情

3つ目は、「自分ならきっとできる」と、自分の能力を信じることのできる力

4つ目は、身の回りのことに「好き」という感情や興味を示せる「ポジティブ感情」

この4つの力は、1つ目から順番に、「I haveの力」「I amの力」「I canの力」「I likeの力」とも分類されます。

中学生が暮らしていくこれからの社会は変化とストレスの多い、複雑な環境になることが想像できます。生徒が自ら培い、また周囲の社会や家庭が生徒に育てたい最高の力は、失敗や困難を乗り越える力であるかもしれません。



佐々木を活性化！プロジェクト

1年生の総合学習の取組



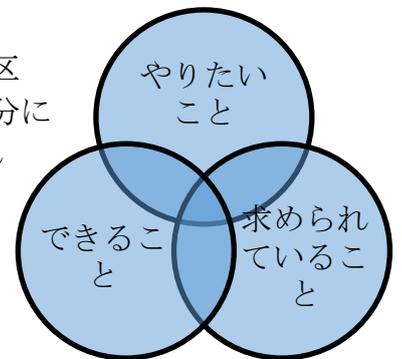
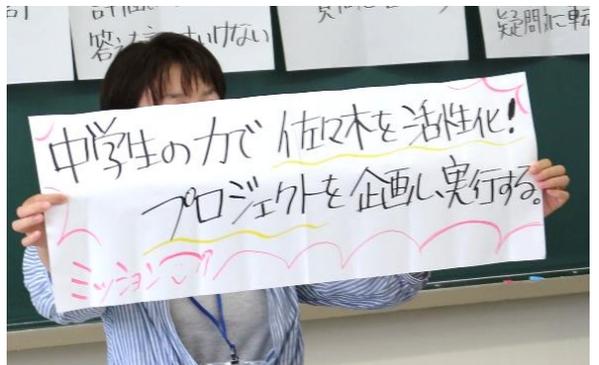
1学年では、総合的な学習の時間に、「中学生の力で佐々木を活性化！プロジェクトを企画し、実行する」というテーマでの学習を行いました。これから3年間の中学校での総合学習を通して、学びを深めていく内容をみんなで掘り下げようとして、話し合いました。

9月27日（水）の午後2時間をかけて、「活性化していくための具体的な学習活動を考える」ところまで様々なアイデアを出し合いました。当日は、学級担任の渡辺先生に加えて、NPO法人「みらいずワークス」の学びクリエイターの方からも授業を進めるお手伝いをいただきました。

生徒たちは小グループを編成し、自分の得意なことや佐々木中学校区の特徴を活用しながら、「①活性化のためにやってみたいこと」「②自分にできること」「③自分たち中学生に周囲が期待していること（求められていること）」を考えながら、アイデアをたくさん出し合いました。

3つの輪（①～③）のそれぞれの内容について考えついたアイデアを出し合った後で、生徒たちは、「自分たち中学生にできることで、ぜひやってみたいこと、そして地域の人たちからもやってほしいと求められていること」（＝3つの輪の重なる部分）としてどんなものが考えられるかを掘り下げてみました。

1年生が、どんな活動で「佐々木を活性化しよう」と取り組んでくれるのでしょうか。今からとても楽しみです。



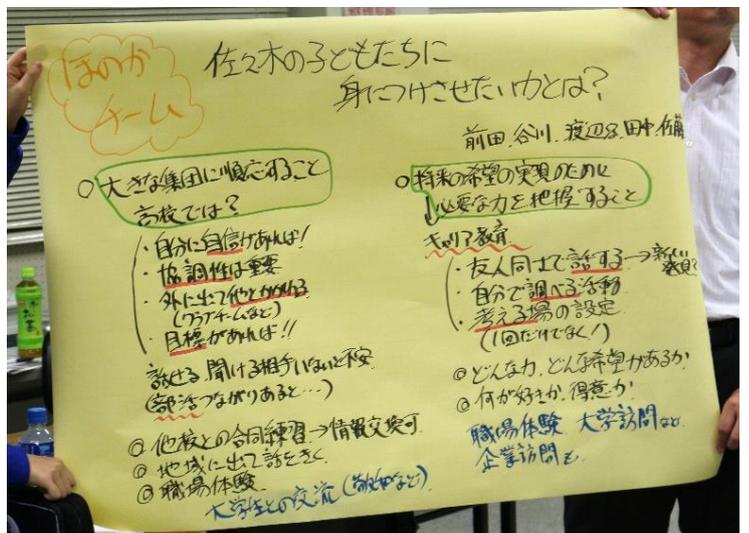
佐々木の未来の子どもを語る会



9月21日（木）に、佐々木中1年生4名、PTA 役員のみなさんや地域の方々、あるいは1年生の地域訪問学習の際に協力してもらった方々などが一緒になって「佐々木中学生に身に付けてほしい力」をテーマに話し合いを行いました。今年度、初めての試みでしたが、中学生の積極的な発言もありました。少し年齢の離れた、大人の方々と中学生とが同じテーブルについて佐々木地域のこれからについて話し合う貴重な時間となりました。

新学習指導要領が公示され、小中学生たちに未来の社会の創り手としての資質・能力を育んでいくことが、これまで以上に求められています。地域社会を支えておられる地域の方や保護者のみなさんと共に、佐々木中学校らしい「社会に開かれた教育課程」の実現に向けてのアイデアやヒントを出し合う話し合いとなりました。話し合いの中では、中学生からは「校外に出て、人とかかわる活動をもっとやってみたい」といった意見がありました。他の出席者からは、「近隣の大学生との交流などもできるとよい」「防災訓練に地域住民と一緒に取り組んではどうか」「企業訪問や大学訪問にも積極的に取り組んでほしい」「卒業生や地域の方から、職業についてのお話を聞く機会があるとよい」「友達と話したり、調べたり、考えたりする学習活動が大切だと思う」

「佐々木中学校区の魅力をもっと積極的に発信できるとよい」といった様々な意見もありました。ご参加いただき、たくさんの意見を出していただいたみなさん、たいへんありがとうございました。



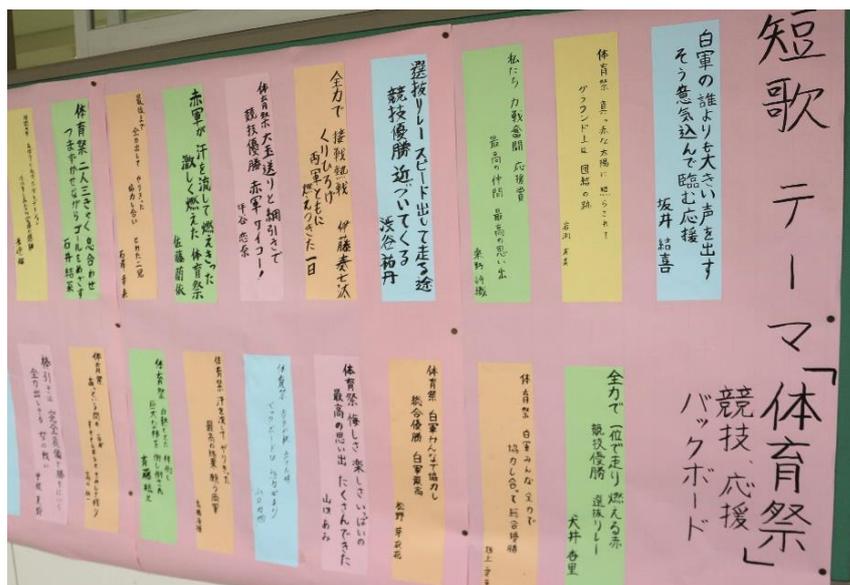
2年生「日本語」科の授業での短歌づくり

2年生の教室前廊下には、右の写真のような生徒たちの「短歌」の作品が掲示されています。

新発田市では、総合的な学習の時間等の一部を利用して、市独自の「日本語科」の時間が設定されています。

体育祭を終えた今、生徒たちの胸に浮かぶ様々な思い出を「短歌」で表現しています。全ての作品が、個性に溢れ、体育祭が生き生きと表現されています。その中の数種を紹介します。

(「日本語科」の授業は、今年度で終了となります。)



2年生生徒	短歌作品	テーマ「体育祭」
Y男	体育祭 当日の朝 立てた時	バックボードは 迫力があり
S男	白軍の 誰よりも大きい 声を出す	そう意気込んで 臨む応援
S男	選抜リレー スピード出して 走る途	競技優勝 近づいてくる
I男	全力で 接戦熱戦 くりひろげ	両軍ともに 燃えつきた一日
T男	体育祭 あっという間の 一日が	すぎてしまうと さみしさ残り
K男	体育祭 太鼓の役を 任されて	やりがいを感じ 白軍優勝
T女	体育祭 大玉送りと 綱引きで	競技優勝 赤軍サイコー
I女	体育祭 二人三きやく 息合わせ	つまずかせながら ゴールをめざす
S女	紅白の ハチマキなびかせ 競い合う	応援響く 夏の終わりに
F女	次は右 何回言っても ひだりを出す	こんなペアでも いつもはぴったり
S女	体育祭 白軍みんな 全力で	協力し合って 総合優勝
S女	棒引きは 完全装備で 勝ちにいく	全力出しきる 女の戦い
N女	ひもとれない 三人四脚 マジ焦る	早く戻れと おこられちゃった

上記の作品以外でも、新潟日報紙上に2年生の次の2つの詩や短歌の作品が掲載されました。

<p>こわれたソファ</p> <p>僕の家にはこわれたソファがある 最近こわれて今もつかっている それにすわると「キーン」と きしんだ音をたてる その音が僕にはくるしそつにきこえた。 もう限界だと言っているようだった。 このソファは年老いたんだなと思った。 だからあまりすわらないようにする。</p> <p>渡辺 輝 (中2・新発田市)</p>	<p>渡邊 輝 実際には家にソファを 思い浮かべながら詩を書きました。ソファ に心があれば、どんな気持ちになるだろ うと想像しながら作りました。新聞に掲載 されて僕もびっくりしました。家族からは 「よかったね」と声をかけられました。</p>	<p>友産と風をきりながら走りまくり森をかけ ぬけたウオークラリー</p> <p>伊藤 奏七汰 (中2・新発田市)</p>
	<p>伊藤奏七汰 短歌を作ろうと考えなが らも、なかなか思い浮かばなかったので、 まず文にしてみようと思いながら作りました。 家族には「すごいね～」と言ってもら いました。嬉しかったです。</p>	

佐々木小6年生への陸上指導

9月25日(月)に、佐々木小学校6年生が佐々木中学校を訪れました。間近に迫った陸上大会での好成績を目指し、中学校陸上競技部員が、小学生のみなさんに「陸上指導」を行いました。見本を見せたり、説明したり、一緒に走ったりといろいろなやり方で、中学生が小学生に向けて熱心に指導する姿がありました。約1時間の練習でしたが、佐々木小6年生は、中学生からの指導を受け、教わる前よりもずっと走り方や跳び方が上手になったように感じました。



小学6年生からのお礼のこたば

佐々木中の生徒のみなさん、先日は長距離の走り方を教えてくれてありがとうございました。本番のときの記録が、練習の時よりも5秒も速くなりました。練習の成果だと思います。ありがとうございました。

佐々木中の生徒のみなさん、先日は80mハードルの跳び方を教えていただき、ありがとうございます。陸上大会では、ハードルに当たらずに走ることができました。転んだりもせず、成功しました。本当にありがとうございました。

佐々木中の生徒のみなさん、先日は100メートル走の走り方を教えてくれてありがとうございました。ぼくは本番の100メートル走のときに練習のときよりも速いタイムが出ました。中学生になったら、陸上部に入りたいです。

佐々木中学校で陸上練習をした時に、走り方や、どうしたら速く走れるようになるかなど、いろいろ教えてくれました。高跳びの跳び方も教えてくれました。本番では速く走ることができました。ありがとうございました。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果について

新発田市ホームページ上に、9月15日から今年度の全国学力・学習状況調査結果（以下、「全国学テ」）が公開されています。市ホームページ上では、全国と新発田市内小中学校との結果の比較が公開されており（下表参照）、また、結果の分析された内容も読むことができます。

1 平均正答率

	小 学 校				中 学 校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
新 発 田 市	78	60	81	47	78	73	66	49
新 潟 県	77	59	80	46	77	73	66	48
全 国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1
県平均との差	+1	+1	+1	+1	+1	0	0	+1
全国平均との差	+3.2	+2.5	+2.4	+1.1	+0.6	+0.8	+1.4	+0.9

全国学テは毎年度中学3年生を対象に行われており、今年度は、国語**A B**と数学**A B**の2科目4種類の調査が行われました。（**A**問題は、「知識」を問う問題。**B**問題は、「活用」を問う問題です。）

新発田市内の中学校の平均正答率は、下の表の太枠で表したところの通りです。全国の平均正答率と比べても、全ての調査で全校平均正答率を上回ることができています。

今年度の佐々木中学校の結果を、下の表に基づいて説明すると、次のとおりです。

佐々木中学校「国語A」	全国正答率を上回った。
佐々木中学校「国語B」	全国正答率をたいへん上回った。
佐々木中学校「数学A」	全国正答率を上回った。
佐々木中学校「数学B」	全国正答率を上回った。

4種類全てで、佐々木中学校の正答率は、全国・新潟県・新発田市の正答率を上回ることができました。（今後は、H30年度には国語・数学以外に「理科」も、H31年度には「英語」が追加。）

また、新潟県教育委員会発行の「学力向上サポートたより」（H29.9.28にHPにアップされました）では、「国語や数学の勉強は好きですか」との問いへの肯定回答の割合が明示されています。

【児童・生徒質問紙調査から】

		小 学 校		中 学 校	
		国 語	算 数	国 語	数 学
教科の勉強は 好きですか	新潟県	64.6	66.1	61.5	56.0
	全 国	60.5	65.9	60.5	55.4
	差	+4.1	+0.2	+1.0	+0.6

この質問項目について、佐々木中学校の回答と全国平均値を比較してみると、国語では佐々木中の肯定的回答（「国語の勉強は好き」）の割合が全国値を大きく上回っており、数学ではほぼ同等程度の割合となっていることが分かります。

また、「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」でも、佐々木中の回答は【新潟県平均値 72.9、全国値 65.9】を大幅に上回る肯定の割合でした。そして、「数学の授業の内容はよく分かりますか」でも佐々木中の回答は【新潟県平均値 73.6、全国値 69.4】を大きく上回ることができていました。

学校保健委員会が開催されました

9月14日（木）5，6時間目に、佐々木小中学校 学校保健委員会が開催されました。

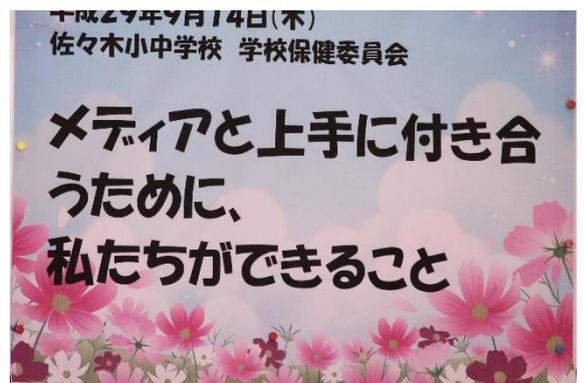
「学校保健委員会」とは、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの健康課題を解決するために話し合い、子どもたちの健康づくりを推進するための組織です。今年度は、佐々木中学校を会場に、小学6年生、学校保健委員の方々（学校歯科医、学校薬剤師、PTA役員）、参加申し込みのあった保護者の方々とメディアをテーマに、ファシリテーションを行いました。

「メディア使用」に関しては、年3回行われている「食と生活習慣に関するキャンペーン（生活チェック週間）」の反省からも、「改善しなければならない」と思っている生徒がたくさんいることを感じていました。しかし、ほとんどの人が「何から始めてよいかわからない」と改善できずにいるようでした。また、お家の方からも、「休日のメディア使用をもっと減らして欲しい」という声がたくさん挙がっていました。

そこで今回は、メディアの良い面・悪い面を踏まえた上で、今よりもメディアと上手に付き合っていくために自分に何ができるかを考えることにしました。大人と子どもと一緒に活動することにより、相互の考えを理解する機会となっていました。また、一人一人が、自分ができることを見つけており、大変有意義な時間になりました。参加してくださった皆様、誠にありがとうございました。

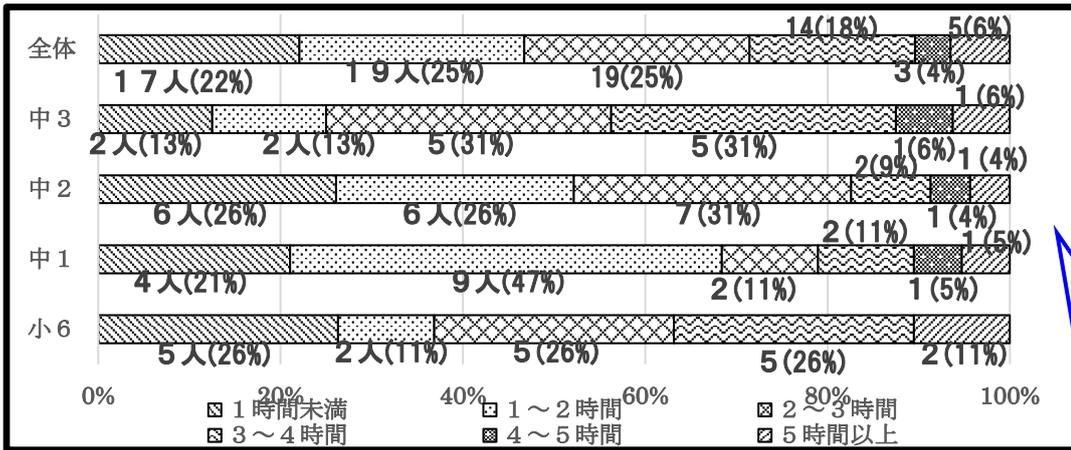
学校保健委員会の様子を紹介します。

最初に、保健体育委員会の生徒が考えた「アタック佐々木」というクイズショーを通して、司会者から出題されるクイズを交えながら佐々木地区の子どもたちのメディア使用の実態や押さえて欲しい情報（子どもに必要な睡眠時間や、1日のメディア使用の目安時間）について発表がありました。クイズは四択の問題で、班ごとに小学生と中学生とが相談し合いながら、答えを考えました。



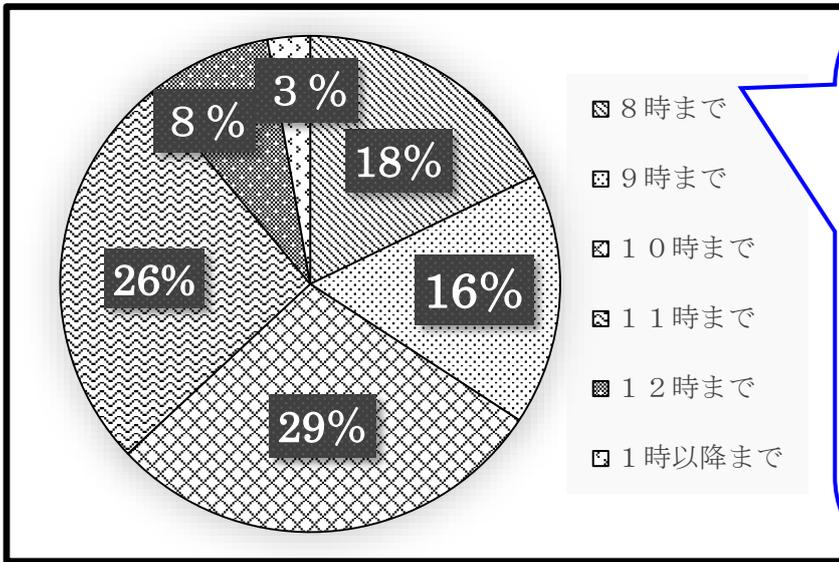
【佐々木地区の子どもたちの実態】

① 普段の情報端末（ゲーム、テレビ、スマートフォン等）を使っている時間の長さ（学年別）



学年にばらつきはありますが、約半数が1日2時間以内の使用でした。「思ったより少ない」という反応が多くありました。しかし、長時間使用者もいます。

② 何時まで情報端末を使っているか



子どもの健やかな脳の成長のために必要な睡眠時間は、8～9時間と言われています。小学校では、年3回の「健康生活レベルアップ週間」の時に、メディアの使用時間の長さだけでなく、寝る30分～1時間前にメディアの使用を終えられるように目標を決めて取り組んでいるそうです。中学生も、睡眠時間の確保や、睡眠の質の向上のために、何時まで使うかを考える必要があります。

【佐中生に忘れて欲しくないものとして紹介】

「スマートポリシー」は、佐中生が自分たちで考え、全員で取り組もうと、平成27年度の生徒総会で承認されたものです。通話やメール、LINEなどは相手とやり取りをします。第1条は、自分だけでなく、相手の生活リズムも考えて使おうという内容です。これは「佐中生のしおり」にも掲載されています。

スマートポリシー

- 1 自分で決める！メディア時間
- 2 直接言おう宣言！大切なこと
- 3 情報は見直し確認！クリティカル

スマートフォン、インターネットなどを利用する上で、心がけていくこと。



～振り返り用紙から～

1年 S

自分の意見をたくさん書くことができました。他の班を見てまわったところ、私には考えられない意見もたくさん知れて、「なるほど」と思いました。そこから、自分なりにメディアとつきあっていくなかで、これからどんなことに気をつけて過ごせばいいのかということも決めたので、テスト期間やキャンペーンのときだけではなく、違う日も、そのようにできるように少しずつ実行していきたいです。



1年 K

思ったよりたくさんの意見が出てびっくりしました。みんなの意見を見ると、自分にできることがあって、もっと頑張れるなと思いました。今日出た意見をもとに、明日からメディアに気をつけて生活したいです。



2年 K

話し合いや発表を聞いたりして、なるほどなと思った意見もたくさんありました。今までは、こうしていきたいと思ってもあまり実行できていませんでした。でも今日の話し合いでこれならできそうだなと思うものもあったので、それをやってみようと思いました。

2年 S

改めて、自分が多くメディアに触れているのだなと思った。コントロールするのも親に任せるだけじゃなくて、自分で時間割を作ったりしてコントロールしていこうと思った。休日もテレビやゲームばかりでなく、外に出て友だちと遊んだりして、メディアの時間を減らしていこうと思う。

3年 I

今回は小学生だけでなく、保護者の方々とも一緒に話し合えて、私たちを見た親目線の感想を聞けたり、意見を共有できたりしたので、とてもいい機会になりました。また、そこで大人の人の考えも私たちと同じようなところもあることを知ったので、家族とも話して協力していきたいと思いました。今日、たくさんの案があがったので、これからの生活の中で生かしていきたいです。

3年 S

私はメディアの時間が多い方なので、少し減らしてみようと思いました。班のほとんどの人が、家でのきまりがないと言っていました。だから、メディアを多くしてしまうのかなと思いました。自分で決めてもいいし、親と決めてもいいから、きまりを作って使っていこうと思いました。いろんな意見が出ていておもしろいなと思ったし、思っていた以上に意見がたくさん出て、班の人とたくさん話せたのでよかったです。



～大人の方々の感想～

□一人で考えるより、意見交換することで方向が決めやすくなって良い活動だと思いました。子どもたちの考えが予想よりもしっかりしていて嬉しく思いました。自立するところも大切にしながらサポートしていければと思います。

□メディアの時間を守るには、家族の協力が大切なのだと思います。スマホやタブレット、パソコンは、上手に使えばとても便利ですが、使い方を間違えると、他人にまで迷惑をかけてしまう物だと思います。メディアとの付き合いは、今後も続くテーマだと思います。

□画期的なアイデアや対策があるわけではないと感じた。ひとつひとつ、少しずつでも良いので、声をかけたり、約束したり、話し合っていくようにしたいと思う。親の姿は鏡になっているかもしれないので、気を付けるようにしたい。



～自分ができること～

○親とメディアに関するきまりを作る。(家でルールが決まっていなくても、「親とルールを決める」という人が多数いました。)

○時間を忘れたときは、家族に注意してもらう。(自分一人では守れないので、家族に協力してもらうという人も多数いました。)

○勉強や家族との会話を増やして、メディアの時間を減らす。

○勉強をしたり、本を読んだりする。

○タイマーをかけて使う。

○メディア以外にも夢中になれることを見つける。

○スマートポリシーを頭に入れて生活する。

ファシリテーションの成果物「えんたくん」は、職員玄関や技術室前等に掲示されています。学校へ来られた際は、ぜひご覧ください。

